

乳幼児のためのかんたんな“造形環境作り”

「造形」とは、読んで字のごとく、〈形〉を〈造〉り出すことです。そのためには、描く、切る、はるなど、何らかの“造形行為”を行なう必要があるため、乳幼児には身体の発達のみにても、難しい部分があります。

しかし、子どもたちの身近に造形的要素を取り入れたり、

まわりにいる人が子どもに造形を楽しむ姿を見せてあげたりすると、子どもは成長に伴い、より自然に造形に親しむようになります。

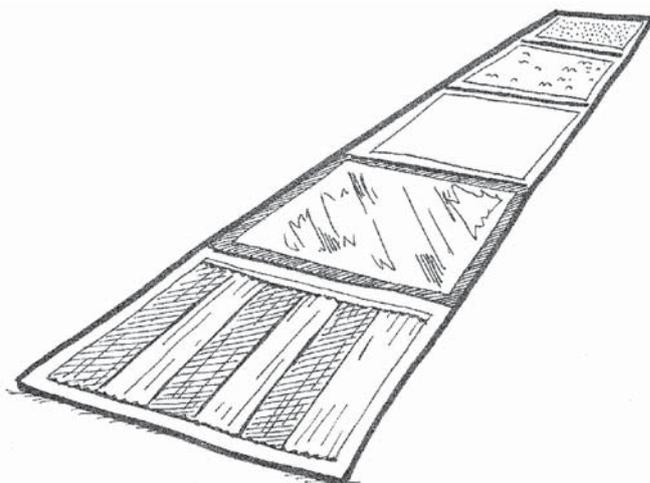
ここでは、乳幼児が造形活動を始める前の、簡単な造形体験ができる環境作りとプログラムを紹介します。

□いろいろな感触の床□

かさかさ、つるつる、ふわふわ、プチプチなど、いろいろな感触が、足の裏や手などで楽しめる“感触の床”です。波段ボール、鏡面状の紙、スポンジシート、エアパッキンなど、感触の異なる素材を、45cm四方の厚手の段ボール板にはり付けて作りました。

かさかさ、つるつるなどの同じ音を繰り返す言葉——いわゆる擬態語は、事物の姿や形、態度を感覚的に表現することができます。言葉の使い方が未発達な乳幼児も親しみやすく、イメージも広がりやすいようです。活動のなかでは、「つるつるしてるねエ」などと保護者が“感触”の擬態語を声かけをしながら、一緒に参加する姿をよく目にします。

使用するときには、ガムテープなどで動かないように床面に固定します。はいはいでも、立ち歩いて歩いても、不思議な感触を味わうことができます。大きさがユニット化されているので、設営、収納が容易です。



イラスト：いがき けいこ

□フロッタージュ（うつし絵）あそび□

誰でも子どものころ、紙に十円玉などの模様を写し取って遊んだ経験があるのではないのでしょうか。これがフロッタージュ（写し絵）です。

土台となる大きな板に、網戸の網やパンチングメタル、階段の滑り止め用ゴムシートなど、凸凹した素材をはり合わせたものを準備します。この上に紙をのせてクーピーペン（または、硬めのブロッククレヨン）をぬかせてこすると、小さな子どもでも比較的簡単に凸凹模様を写し取ることができます。クーピーは、事前に3～4cmの長さに折ったものを用意しておく、フロッタージュ遊びが容易に行えます。

誤飲防止のために、小さくなったクーピーは出さない、乳児とのエリア分けをするなどの配慮が必要です。また凸凹を写し取る紙は、子どもの手の動きの大きさを考えても、B5サイズ程度のコピー用紙があれば十分です。

□もみ紙あそび□

画用紙などの洋紙は、表面が平らでなめらかです。ピーンとした紙を、クシャクシャに丸めたり、広げたりしながら、破らないようによくもんでいくと、たくさんのしわがよって、柔らかい布のように変化していきます。

布ようになった紙を封筒状にして、目や口をつけるだけで、手を入れて動かして遊べるパペット人形ができあがります。

小さな子どもと作る時、一緒に紙をくしゃくしゃにしたり、「のりをぬるのを手伝ってね」「この飾りはなに色にする？」などと、声かけをしながら、作る過程を共有して楽しむと、次の造形遊びにつながっていきます。

